

発行：安全な生活を願う市民の集い (Tel/Fax：042-725-2545)

東日本大震災発生から四か月余、地震と津波だけの三県では、瓦礫の片付けから復興への歩みが始まったと伝えられています。

一方で、地震津波直後に起きた福島原子力発電所の事故では、その後の事態が深刻です。放射能汚染について、新たな問題が日々起きています。

福島原発からは今も大量の放射能が漏出し、大気や海水に溶け込み、それは世界の空と海とに拡がっています。

空気中の放射能は、呼吸するたびに私たちの肺に侵入します。その放射能は、雨が降れば雨水に溶け込んで私たちの飲み水を汚染し、同時に地面にも吸い込まれて土壌を汚染しています。

放射能は色も匂いもなく、音も出さず、皮膚に当たっても痛くもかゆくもありません。被曝に気付くのは五年・十年後、発病した時、というのでは手遅れです。どうすればよいのでしょうか？

ママ、放射能ってなぜ怖いのです？

生き物の細胞を壊して生きられなくしちゃうからよ。

僕も生き物でしょ。どうしたらいいの？

ごめんね...

勉強会・集会のご案内

参考図書のご案内

★シンポジウム

《 福島原発事故から何が見える？ ~放射能といのち~ 》

日時：2011年8月14日(日) 12:30開場

会場：町田市民フォーラム (3階ホール)

講師：小泉 好延 さん(放射線計測学)

森住 卓 さん (フォトジャーナリスト)

お申込・お問い合わせ：Tel・042-729-2296

★原発にさようなら集会

日時：2011年9月19日(月) 13:30~

場所：東京・明治公園(千駄ヶ谷)

お問い合わせ：Tel・03-5289-8224

◆『隠される原子力 核の真実』
(小出裕章著・創史社)

原子力の専門家が、放射能の脅威を分かりやすく解説し、原発の危険性を訴えています。高校生以上にお薦めします。

◆『まだ、まにあうのなら』
(甘蔗珠恵子著・地湧社)
チェルノブイリ原発事故からのメッセージに、耳を傾けて欲しい。中学生以上にどうぞ。

円卓

A：約四六億年前に地球が誕生した時、宇宙の紫外線や放射線が強すぎて、生命体は生きられない環境だったんだよね。

B：そう。七百万年前にやっと人類の祖先が現れたんだ。自然界の放射線レベルが人類の生存可能レベルまで下がるのに、それほどの時間がかったんだね。

C：放射線って、僕たちの体の細胞を傷つけるんだって、本当？

A：そうだよ。細胞内の染色体にあるDNA(遺伝情報)が壊れて、この身体が今までの形を維持できなくなっちゃうんだ。たとえば、短時間に一シーベルト以上の放射線を浴びると、吐き気がしたり消化器障害が出たりするし、短時間に六シーベルト以上浴びると死ぬんだよ。

C：つまり、人間は放射線とは共存できないってことだね。

B：だから、原子力を使う原発は、いったん事故を起こせば人類の生存を脅かす大変な脅威になるんだ。
C：もっと放射線の勉強をするよ。

【後記】 私達は、放射能の心配がない安全安心な生活環境を取り戻したいと願う者のグループです。毎月1・11・21日にこのニュースをお届けします。Faxにて集会情報のご投稿をお願いします。